



天満屋ハピータウンリブ総店の1階で販売を始めた「農業公社 リブ総店」。販売初日の2月7日には、ダイコンやハクサイ、キャベツ、ニンジンなど約30種の野菜が並べられ、訪れた人は市内産の新鮮な野菜を買い求めていた



▼直売所を開設  
地産地消を進めるそうじや「地・食べ」委員会の生産者部会の事務局を務める農

## 地産地消の「地・食べる」の推進 リブ内に直売所を開設 学校給食用のほ場を示す看板も完成

業公社きびの里は2月7日、天満屋ハピータウンリブ総店に直売所を開設。学校給食以外で、この事業での認定生産者が作る野菜の新たな販路を確保していくことがねらいです。

同店の西玄関を入ったすぐのロビーに仮設の店舗を設置。「農業公社リブ総店」として、毎週火曜日と木曜日の午前10時から午後2時ごろまで販売します。

▼作付け計画決まる  
同委員会が1月19日、総合福祉センターで開かれ、4月から10月までに学校給食へ納入する野菜の作付け計画が決まりました。計画では、市が認定した生産者グループや出荷組合などが1月下旬から種まき



▼地・食べをPR  
「地・食べる」の取り組みを広く周知するため、学校給食用の野菜を作るほ場を示

す看板、生産者や協力店を示すステッカー、イベントでの使用を想定したのぼりを、岡山県立大学と共同研究で制作しました。  
問い合わせ 農林課農林係 (☎08271)



天満屋ハピータウンリブ総店で地産地消の「地・食べる」と学校給食を紹介した展示

# 障がい者千人雇用



障がいがある人を対象にサンロード吉備路で行われた就職面接会。参加者は個別に各事業所のテーブルを回り、話を聞いていた

## 障がい者ワークわくそうじや就職面接会 企業との出会いの場から 就労を支援

「障がい者ワークわくそうじや就職面接会」が1月26日、サンロード吉備路で開かれ、参加した50人の障がい者は、自分にあった就職先が見つければと企業や事業所の話を熱心に聞いていました。

市内の企業7社をはじめ、福祉的就労で雇用契約を結ぶA型事業所3社と就労移行を支援するB型事業所2社、市と雇用推進の協定を締結している倉敷平成病院の計13社が面接窓口を開設。合計求人数は32人で、参加者は、職業能力に応じた企業を選ぶことができました。

面接は個別に実施。仕事の内容や職場環境などについて

参加者は担当者となり取りをしていました。

参加した一人で足に障がいがある妹尾美樹さん(窪木)は、「家から近い場所で就職できたらと参加しました。教社と面接をし、1社から『見学に来てみてください』との話をいただきました」と、笑顔で話してくれました。

面接会は、市が進めている障がい者千人雇用の一環です。市主催は全国で初めてで、市と総社地区雇用開発協会、ハローワーク総社、総社商工会議所と連携して開催しました。

問い合わせ 福祉課障がい福祉係 (☎08269)



福祉的就労で雇用契約を結ぶA型事業所「のぞみ」(井手)で2月9日、本格的運営を祝い開所式が行われた。NPO法人のぞみ(井手)が運営。障がいがある人約10人が、ラスクの製造販売に携わる。このうち5人が、障がい者ワークわくそうじや就職面接会をきっかけに就労した